

## 【熊本県教育委員会賞】

### やさしさに触れて

熊本県立芦北高等学校 1年 橋本 留奈

「いつも助けてくれてありがとう。」

私は保育園の頃、毎日のように転んで膝を血だらけにしていました。先生から「橋本さんはよくこけるので、一度病院に連れて行ってください。」と言われ、検査を受けることになりました。医師から言われたのは、「女の子には、まれにある病気です。成長するにつれて治っていくと思うので、治らなかつたら手術です。」とだけ。小学生になり徒歩通学するようになると、歩くのが遅く、みんなと登校できませんでした。毎日、教頭先生が途中まで迎えに来てくださって、一緒に歌を歌いながら歩いていたのを覚えています。学校から帰るときには、友人が私にペースを合わせてくれました。ある時、学級懇談会がありました。母は参加することができず、後日内容を聞くと、ある保護者から「いつも橋本さんのせいで登校が遅れる。障がい者だから車でいけばいいのに。」と、心ない言葉を言われていたそうです。母は車の中で泣いていました。当時の私には母の涙の意味が分かりませんでしたが、その日以降、車で登校するようになりました。

中学3年生になり、足のアキレス腱を痛めて、熊本で有名な回生会病院で診察を受けました。精密検査の結果、「全身関節弛緩症」という病名でした。自分の症状の原因が分からず、何をすることも制限があり、周りに迷惑をかけてばかり。「私なんて」と、ずっと悩んでいたのも、病名を聞いてスッキリしました。リハビリをするため、一週間おきに病院に通うことになりました。母は忙しいはずなのに、私の病院に付き添うために仕事を早退したり、家でのリハビリを手伝ってくれたりしました。

芦北高校林業科に進学し、体育の授業や実習では、自分のできることはできるだけ参加しようと決めました。芦北高校林業科は、授業の一環で、学校が所有する山での演習があります。先生が手を引いて山道を歩いてくれたり、友人が荷物を持って坂道を歩き、自分もきついはずなのに「大丈夫？」と声をかけたりしてくれました。家族、親しい友人や先生方に支えられて今の自分があるのだと、感謝の気持ちがこみ上げてきました。

私はずっと「全身関節弛緩症」という病気を背負って生きていけないといけません。それはこれから出会いのある人に迷惑をかけてしまうかもしれません。しかし、「なぜ、私だけ…」とネガティブに考えず、自信を持って行動していきたいと思います。そして、私には目標があります。1つは、公務員になり母を生活面でも精神面でも支えることです。まだ私は、ご飯の準備や片付けくらいしかできませんが、できることを増やし、母の笑顔を毎日見たいと思っています。もう1つは、私の周りには友人や私と同じように病気で苦しんでいる人を少しでも助けられる存在になることです。今も友人が落ち込んでいるときには、自分から声をかけるようにしています。これまで支えてくれた人たちに恩返しができるよう、頑張っていきたいと思います。